様式１２－２

整理番号

新しい公共支援事業の成果等報告
（新しい公共の場づくりのためのモデル事業分）

１．成果等報告

モデル事業名	東日本大震災に伴う被災地災害ボランティアセンター運営支援事業
分類	□一般枠　□ＮＰＯ支援重点化枠　☑震災支援枠　（該当するものにチェック）
事業実施主体名	協議体名：社会福祉法人東京都社会福祉協議会 （実施主体-東京ボランティア・市民活動センター） 行　政：東京都（生活文化局）
実施期間	平成２４年４月１日～平成２４年９月３０日
支援額 （注釈参照）	１３，４９３，０００円 （内訳） ○ボランティアコーディネーター派遣 人件費 8,412,000 円、派遣関係経費 4,034,000 円（旅費交通費：2,334,000 円、賃借料：1,700,000 円）、コーディネーター活動費：782,000 円（会議会場使用料：50,000 円、通信運搬費：328,000 円、消耗品費：60,000 円、修繕費・雑費：300,000 円、役務費：44,000 円） ○専門家によるノウハウ提供 派遣関係経費 265,000 円（旅費交通費：193,000 円、宿泊費 72,000 円）
マルチステークホルダー（会議体）の取組状況	陸前高田市社会福祉協議会から、同会が設置する災害ボランティアセンターの運営支援の要請を受けて、本事業を準備、調整、運営した。具体的には、東京都社会福祉協議会が調整の窓口となり、派遣するボランティアコーディネーターと現地の宿舎等の住環境の確保、事業の運営管理及び陸前高田市社会福祉協議会との調整を現地派遣職員と連絡を取り合いながら実施した。また、事業の方向性については、東京都生活文化局の担当者と打ち合わせの上、進行した
事業概要	東日本大震災の被災地において、ボランティアと被災地（者）との調整役となるボランティアコーディネーターが不足するなか、平成２３年度５月以降、陸前高田市災害ボランティアセンターに派遣してきた本会現地派遣職員を、陸前高田市社会福祉協議会からの強い派遣要請を受けて４月以降も継続派遣する。 同時に、活動の基盤整備のために、被災地支援の専門家による災害ボランティアセンター職員へのノウハウを提供する
事業内容	＜事業目的＞ 東日本大震災の被災地災害ボランティアセンターの運営支援により、被災地の長期的な復興活動に貢献するとともに、都が被災した場合に備え、災害ボランティアコーディネーターの中核となる人材を育成することを目的とする ＜事業内容＞ １　支援対象：社会福祉法人陸前高田市社会福祉協議会が設置する陸前高田市災害ボランティアセンター ２　実施期間：平成２４年４月１日から、同年９月３０日まで ３　実施内容及び規模 （１）ボランティアコーディネーター派遣　２名常駐 ※繁忙期（５、７、８月の内計１０週）は、１名増員 （２）専門家による災害ボランティアセンター職員に対するノウハウの提供３回

実施内容	＜実施内容＞ （１）ボランティアコーディネーター派遣 ① 派遣実績総数：のべ２７７人日（２０１２年９月末） ② 繁忙期１０週の１名増員については、現地と調整の上、派遣を見送った ③ 現地派遣職員の秦野と桑久保が、本会実施の平成２４年度災害ボランティアコーディネーター養成講座　Ｓ級コース第１期７月９日（月）「災害ボランティアセンターの機能と役割」にて、陸前高田市災害ボランティアセンターの事例発表を行い、災害ボランティアコーディネーターの役割やボランティアセンターの運営業務について報告した （２）専門家による災害ボランティアセンター職員に対するノウハウの提供―２回 本会ボランティアセンター所長の山崎を専門家として現地に派遣し、陸前高田市社会福祉協議会職員及び災害ボランティアセンタースタッフに対する研修を行った。内容については陸前高田市社会福祉協議会職員と検討調整を行った （３）陸前高田市社会福祉協議会及川事務局長との意見交換会 会議体構成団体である陸前高田市社会福祉協議会の担当者との事業調整及び担当者による「被災地現状に対する報告」の講師として、及川事務局長を招き本会災害担当職員と被災地（者）支援に関する意見交換会を実施した
得られた成果及び自己評価	（１）ボランティアコーディネーター派遣 本事業によって、陸前高田市の被災地（者）の支援拠点である災害ボランティアセンターで、災害ボランティアの受け入れ調整及び多岐に渡るボランティアセンター運営業務を補佐し、被災地の復興を継続的に支援した。現地との綿密な交流に基づき収集した情報に合致した支援を、関係団体と連携して行った 発災後１年以上経過し、役割を終えて引き上げる外部支援団体もある中で、昨年度より継続してセンター運営に関わってきた本事業の現地派遣職員は、４月に移動してきた陸前高田市社会福祉協議会職員に業務の引き継ぎを行うなど、これまでの経験を活かして、柔軟にボランティアセンター業務を遂行した また本事業は現地派遣職員にとって、被災地災害ボランティアセンターの運営に関わる経験の場として、災害ボランティアセンター及びボランティアコーディネーターに関する見識を広げる機会となった。また、本会実施の都内災害時の支援団体向け研修事業において、陸前高田市の事例報告を行い実際の被災地の現場の様子や、ボランティアコーディネーター業務に関する経験を、対外的に発信することが出来た （２）専門家による災害ボランティアセンター職員に対するノウハウの提供 陸前高田市社会福祉協議会職員に対して、専門化によるノウハウ提供の機会を設け、陸前高田市社会福祉協議会の被災者支援に関する活動の基盤整備を支援した。日常的に職員間で共有しきれていない課題や考えを共有し、対応が難しい場合の対処策やメンタル面のケア等についてアドバイスを行った

	また、陸前高田市社会福祉協議会及川事務局長を東京に招き、本会災害担当職員に対して、被災地現状に加えて災害ボランティアセンターの具体的な運営の流れ、組織再建に向けた取り組みを報告いただき、相互に情報意見交換を綿密に行うことができた 今後の波及効果としては、災害ボランティアコーディネーターとしての経験を持つ人材確保や、他団体との連携構築のノウハウ等、今後都内が発災した場合に備えた災害ボランティアコーディネーター制度の仕組みづくりに役立てていくことが出来る。特に外部支援者として被災地のボランティアセンターの運営支援によって得られた経験値は、都内で発災した際に、外部支援団体との協働を円滑に進め、地域中心の自立的な復興支援活動に繋げていくための参考事例として活用できる	
	評価ランク	☑S：特に優れた成果が得られた　□A：優れた成果が得られた　□B：一定の成果が得られた　□C：限定的であるが成果が得られた　□D：成果が得られなかった （該当する評価にレを付けてください。）

2．添付書類

「東日本大震災に伴う被災地災害ボランティアセンター運営支援事業」報告

Ⅰ　ボランティアコーディネーター派遣の実施内容および実績について

Ⅱ　専門家によるノウハウ提供について